

1. 本園の教育目標

教育目標「たくましい子」のもと、幼児の特性を踏まえより良い教育環境により幼児の発達を助長することを目的としている。特に心情・意欲・態度づくりに心掛け、心身共に健康で、たくましい子に育つよう、一人一人の良さを見つけ認め伸ばす幼児教育を目指している。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

幼稚園教育の大切さを守り、「興味や関心・挑戦などに心を動かして取り組み、自らの遊びを振り返って次につなぐ」という重点目標に向かって、環境を見つめ直し、子どもの学びについての理解を深め保育にあたる。園内での保育の発信にも力をいれ、保育を語る力をつけていく。家庭や地域・学校との連携をはかりながら発信もしていく。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況及び評価点	学校関係者評価委員の意見
興味や関心・挑戦などに心を動かして取り組み、学びを遊びに取り入れ、教育の質の向上を目指す	環境、特に自然とのかかわりに力を入れ、子どもの発見や発信を大切にしてきた。情報ボードの活用、ドキュメンテーションなど新たな工夫をし、子どもだけでなく教員も主体的になってきたことは価値があった。まだ、工夫の余地があるため引き続き努力したい。園生活のあり方や新たな行事を考え実践に努めた。	B 研修を積み、教員が学びを深め、その中で同僚性が育まれていることは良いことである。教員の頑張りも認めている。質の高さも理解している。質の高い教育と安全についても引き続き行われるよう、良さを出し合ってほしいと願っている。
幼稚園や園児の遊びの情報の発信について考え推進する	クラス・園だよりに加えホームページでも子どもの様子や子どもの育ちを載せた。コロナ禍での園の教育や考え方は保護者に伝わっていることは実感している。行事の中で、ドキュメンテーションを活用するなど可視化し、子どもの学びが伝わりやすいように工夫した。教員の伝える力をつけることが課題である。	B 園のHPIは保護者以外にも浸透している。おたよりやHP、動画を楽しみにしている保護者も多い。新しいことへの取り組みや動画には期待している。引き続き工夫してほしい。
地域・家庭・学校における連携に取り組む	私学の独立性に充分配慮しつつ、保護者が期待する幼稚園を探っていった。コロナ禍ではあったが、地域や学校との連携は生まれるようになった。園が家庭と子どもをつなげる架け橋となり、子どもたちに必要な経験を準備する方向で少しずつ進み始めた。引き続き、研究を進め、家庭・地域への発信についてさらに工夫する。	B コロナ禍の幼稚園という環境は、親にとって非常に安心できる場となっている。今後は、コロナ禍での学びを生かし、内容の更なる向上が必要となる。地域の園として力を大いに発揮することを望む。園の食育農園は保護者の他、地域の関心が高い。大いに活用してほしい。

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
多様なかかわりや体験を積み重ね、繋がる力、挑戦する力、夢中になる力、発信する力、育てる	園内研修を積み重ね見えてきた次へのステップに進むためについて学び合い、園の良さや課題についての研究を深めるとともに同僚性を育む。園生活や遊びをわくわく感でいっぱいにする中で、体験の質・学びの質を深める。
幼稚園での学びの発信・保育を語る力	HPや地域力の活用を工夫し、園の良さや教育を積極的に伝える。安全・安心に十分に考慮しながらも、心を豊かに育つ子どもの姿や幼児教育の学びについてわかりやすい形で情報発信する。ドキュメンテーションの質を高め保育を語る力、伝える力をつける。
幼稚園と家庭・地域の連携・安全	私学の独立性に配慮しつつ、保護者や地域が期待する幼稚園を把握し、ビジョン策定の基礎とする。幼稚園と家庭とが常に子どもを中心に考え地域とのつながりを深められる方策を探る。安全面の見直しとマニュアルの改善、現場意識を高める。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

温かな雰囲気のもと、きめ細やかな教育をしていることは、保護者からの信頼感からも伝わってくる。充実した園環境、生活・安全を重視し、豊かな経験ができるように引き続き考えてほしい。教員の頑張りも認めているので自信を持ちながら、次年度に向けて課題に向かってほしい。

6. 財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。

学校関係者評価結果の報告を申し上げます。

令和 5年 5月 16日

(学)大里東学園理事長天野正之様 大里東幼稚園学校関係者評価委員会